

IP電話のR値を汎用PCで測定 圧倒的なコストパフォーマンスで提供 手軽で高性能な音声品質評価ツールが登場

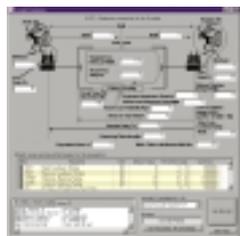
総務省がIP電話の通話品質基準として「R値」採用を発表したことで、通信業界ではR値測定ツールへのニーズが高まっている。そこでアルチザネットワークスでは自社製VoIPプロトコルアナライザのプラグインとしてR値が測定できる音声品質評価機能を8月30日にリリース、提供を開始した。

ソフトベースのソリューションを 業界に先駆けて提供

アルチザネットワークスが今回リリースした音声品質評価ソリューションは、VoIPプロトコルアナライザ「Artiza VoIP Analyzer (以降Analyzer)」のプラグインモジュールとして提供されるものだ。同社は、通信事業者や通信機器メーカー、Sierに対し、プロトコル・テスト・ソリューションなどを提供している。IPネットワーク関連ではその普及に伴い、2000年8月にVoIPシミュレーションソフト「Artiza VoIP Simulator」、同11月にAnalyzerを発売。この2製品の連携で、進化するVoIPシステムの開発・運用をサポートしてきた。従来、シミュレータやアナライザといった製品は、専用の高価なハードウェアシステムがほとんど。そこにアルチザネットワークスは、業界に先駆けてソフトウェアベースの製品を投入した。

「汎用PCにインストールして使えるため、コストパフォーマンスに優れています。ノートPCを使用すれば、フィールドリサーチも手軽に行えることが高く評価され、R&D部門を中心に各社への導入が進みました」(ソリューション・セールス統括部 VoIPネットワーク・テスト・ソリューションズ 小林俊曉氏)

E-Modelカリキュレータ



ソリューション・セールス統括部 VoIPネットワーク・テスト・ソリューションズ 小林俊曉氏

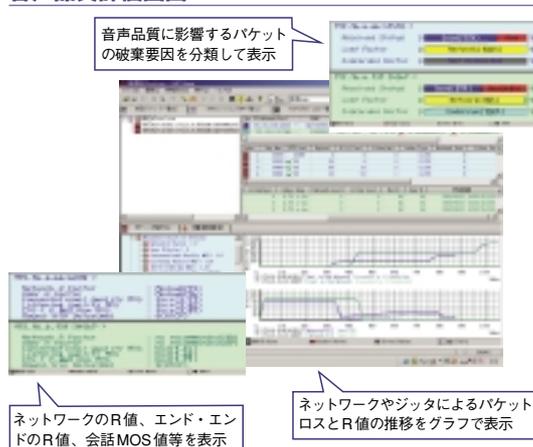
さらにAnalyzerでは、セッションを一覧表示したり、VoIP関連プロトコルの解析結果を階層的に表示する機能など、正確さとビジュアル表現による分かりやすさも高く評価されている。

E-Model拡張版の採用で 品質評価の精度を向上

IPネットワーク上の音声品質に対する関心が高まり始めたのは、1年半ほど前。そして今年2月、総務省がIP電話の通話品質基準として、ITU-Tで定められているR値(G.107で規定する音声品質設計方法「E-Model」による計算値)を用いると発表したのを契機に、R値測定ツールへの問い合わせが増加。「こうした市場の流れに合致し、理想的な時期に投入できました」と小林氏は語る。

今回のソリューションにおける特徴は、E-Modelの拡張版(ETSI TS 101 329-5 AnnexE)として標準化されている技術を採用したこと。実際にネットワーク上を流れる音声トラフィックをキャプチャし、通話品質に影響を与える要素を考慮して、「Network R」値と「User R」値を算出する。Network Rは、ジッタ、パケットロス、バーストやコーデックの影響を考慮してネットワークのエンド・エンドのR値を算出。User Rは、Network Rに遅延要素、リーセンサーなどを考慮し、端末を通してユーザーに聞こえるR値を算出する。この値から、音声品質に影響する劣化が生じた箇所の切り

音声品質評価画面



分けが行える。また、R値と統計データからMOS値を算出することも可能だ。

R値とネットワーク状態の相関グラフをはじめ、解析の状況や結果などは、ビジュアルで分かりやすく表示される。

このほか、E-Modelで規定されたR値に関する18個のパラメータに与える影響や関連を把握できるE-Modelカリキュレータを搭載。

価格は1本95万円(Analyzer基本機能：50万円+音声品質評価オプション：45万円)。アルチザネットワークスでは、今回発売したソリューションの「フェーズ2」としてネットワーク上にプローブなどを配置し、一定の品質を維持するために実音声のR値を継続的に測定できる機能の追加も検討が進められている。

お問い合わせ先

株式会社アルチザネットワークス
ソリューション・セールス統括部

TEL: 042-529-3494 E-mail: voip@artiza.co.jp
URL: http://www.artiza.co.jp/vprf/